

＜目を覚まして祈り続けなさい＞

マルコ 14 : 26 ~ 42



挫折を知らない人は危ない？！

クリスチャン人生は、立派に「みことばを行う」というよりも、自分の弱さを知るたびに、本当の意味でイエスに出会っていくもの。失敗や挫折の中で出会うイエスさまによって、キリストと共に生きることを学んでいく。

十字架を目前に、弟子達は深い挫折を味わった。

イエスさま 「あなたがたはみな、つまずきます。」

ペテロ 「たとい全部の者がつまづいても、私はつまづきません。」

イエスさま 「まことにあなたがたに告げます。あなたは、きょう、今夜、鶏が二度鳴く前に、わたしを知らないと言います。」

ペテロ達 「たとい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」

ゲッセマネ……「油しぼり」という意味。オリーブ山のふもとにある。

イエスさまを十字架に架からせまいとする、激しいサタンとの闘いがあった。

「わたしは悲しみのあまり死ぬほです。ここを離れないで、目をさましていなさい。」

それから、イエスは少し進んで行って、地面にひれ伏し、もしできることなら、この時が自分から過ぎ去るようにと祈り、またこう言われた。「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」 【34～36節】

この地上で天地創造の神を「お父ちゃん」と呼ぶ者はイエスさまだけだった。

「三位一体」…三位格は一つ。 父／子／聖霊

この方(救い主・キリスト)を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、
神の子どもとなる特権をお与えになった ヨハネ 1 : 12

あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私達は御霊によって、「アバ、父。」と呼びます。 ローマ 8 : 15

- ◆ 私たちが「お父ちゃん！」と呼んで祈れるようになったのは
「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」と叫ばれたイエスさまの十字架の犠牲と引き換えだった。お父ちゃんと呼ぶ事はゆるされず、罪あるものとみなされ、見捨てられた。

「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」【35節】

* 杯…神の罪に対する怒り

弟子達はイエス様の悲しみをよそに、眠ってしまった！
目を空けていることが出来なかった。
すさまじい霊的戦いの中でウトウトしてしまった。

「誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」
【38節】

「目を覚ましてたゆみなく祈りなさい。」コロサイ 4 : 2

「たゆみない」…ギリシア語「根気よく、粘り強く」という意味。

「弛まない」……「ゆるまない」ピンと張っている。

- ◆ 「弛まない祈り」によって、イエス・キリストがますますはつきりとしてする。